

## 「大賞」コメント

書名：動物とはなせる少女リリアーネ

著者：タニヤ・シュテーブナー

自分の名前と主人公の名前が似ていて、1度この本を見るなり目がはなせなくなりました。今はもう全て読はしましたが、何度読んでもおもしろく、あきない本です。動物と話せるという能力を生まれつき持っている主人公。ありえないような世界感に、思わずそっちの世界に引き込まれそうになります。(原文ママ)

P.N：離々火（リリカ）



## 「小学生の部優秀賞」コメント

書名：ディズニーシーであった心温まる物語

著者：吉田 よしか

東京ディズニーリゾートは、誰もが昔からの友人というように手をふりあう夢の国。この本は、そんな夢の国での小さなハピネスがつまったお話です。共感できるところがたくさんあり、私も、忘れていた「思い出」を思い出すことができました。さあ、ディズニーマジックにかかってみませんか？(原文ママ)

P.N：響夏

## 「学生の部優秀賞」 コメント

書名：神様のカルテ

著者：夏川 草介

信州の本庄病院が舞台。主人公の栗原一止と病院の患者と医者、看護師のストーリー。一止は御嶽荘の桜の間に住んでいる。御嶽荘での学士殿、男爵との出会い。人間同士のかかありが、どんなに大切かがわかる。患者との接点では、人の命の重さ、患者の死を知るつらさ。すごく心に染みて、感動する物語です。(原文ママ)

P.N：ピロム



## 「一般の部優秀賞」 コメント

書名：宿命

著者：東野 圭吾

私が入院中「宿命」という小説を読書していた時のこと担当の看護師さんが、「これ読んだことある！何々なんだよね！」と結末を言ってしまったのです。看護師さんはハッとして 2 人で苦笑いした思い出があります。ネタバレしても最後まで面白く読むことができた思い出の一冊です。(原文ママ)

P.N：ピコ次郎

# 「特別賞」 コメント

書名：ポトスライムの舟

著者：津村 記久子

自分の首を絞めながら仕事をしていたために身体を壊し、休職していた私が、旅先で出会った本である。

「休んでいることが体に馴染んでいて、これから大丈夫なのだろうかと不安だったが、辛いと感じればうまく手を抜けばいいと気軽に思った」という一説は、真面目すぎる自分を初めて解放させてくれた。(原文ママ)

P.N : Remon

